SAPIX 2024

『ハブハブブハー』大賞

おともだちになるために

1年　Y・Kさん

「ハブハブブハー」をよんで、はじめにかんじたのは、ブハーはすごいなということでした。なぜなら、ブハーはおともだちをつくるために、けしてあきらめなかったからです。わたしもおともだちをつくるときは、きんちょうして「どきどきするな。いまこえをかけてだいじょうぶかな。」とおもいながらこえをかけています。

つぎにかんじたのは、ブハーがかわいそうとおもいました。ブハーがどくでなやんで、ひとりでないていたからです。「わたしがブハーみたいにどくがあったらどうしよう。」とかんがえて、かなしいきもちになりました。でも、そのあと、みんなのためにたちむかうすがたに「がんばれ」とおうえんするきもちになりました。

いちばんいんしょうにのこったばめんは、みんなとすごしたたのしいおもいでをむねに、ハブとしてどうどうとまいにちをおくっているところです。どくがだいっきらいだったブハーは、おとなになって、どくがあるのはわるいことではなく、ありのままのじぶんのすがたをうけいれることができるようになって、うれしいきもちになりました。

もし、わたしやおともだちにちがうところがあっても「ちがうだけ」なんだとありのままのすがたをうけいれたいとおもいます。また、わたしもみんなといっしょにあそべるように、「だいすき」などのうれしいことばをつたえたり、ひとりぼっちのこがいたら、こえをかけたいなとおもいました。